

# 社内情報システムを構築する秘訣

株式会社システムエンジニアリング

# 目次

---

ハードウェア(機器)環境の選択

ソフトウェア・サービス環境の選択

システム構築方法の選択

運用方法選択

その他

まとめ

# 機器・ネットワーク環境の選択

システムには機器及びネットワークが必要です。選択の基準は「買う」か「借りる」かになります。判断基準は導入、ランニング、保守になります。

	導入	ランニング	保守	メリット・デメリット
オンプレミス 「買う」	すべて購入。将来的に必要な規模まで含めて性能を決める必要があり、コスト高。節税や助成金が使える。	基本的に発生しない。	機器のメンテナンスや故障に応じて費用が発生する。将来的に入替が必要。性能不足になった場合変更が困難。	外からネットワーク接続が困難。社内利用のみはOKだが、社外からのアクセスにはセキュリティ対策が必要。
クラウド 「借りる」	最小性能かつすぐに始められる。	使用料に応じた課金。使い方によっては高額になるので設計時にノウハウが必要。	性能の向上が容易。消耗品が無いので入替も不要。	支払いはクレジットが多い。代行業者を使用すると請求も可能。

# ソフトウェア環境の選択

選択基準は機能制限とライセンス及び使用する環境です。

ソフトウェア・サービス	環境	機能制限	ライセンス
Microsoft Access	Windowsで社内使用のみ。	クライアントにインストールが必要の為に修正更新は手間がかかる。大規模データには向かない。ブラウザ動作無。	Access単体購入または、Microsoft365にて購入。
FileMaker	Windows/MacとタブレットはiPadのみで動作可能。	専用クライアントでの動作。共有する場合はサーバが必要。	購入またはサブスクリプション。クライアントとサーバライセンスが必要。
Kintone	ブラウザ動作。クラウドサービスのみ。	データ容量及びユーザー数に制限があり。	クラウドサービスの提供のみ。ユーザー数ライセンス。
Pleasant	ブラウザ動作。クラウド・オンプレミスの両方で可能	クラウドサービスの場合はデータ容量とユーザー数に制限があるが、オンプレまたは独自クラウドは制限なし。(性能は機器に依存)	クラウドサービスは無料枠あり。導入型は基本無料。

# システム構築方法の選択

システム構築には、社内の業務や使用しているExcel表を確認しながら、使用するソフトウェアに合った構築が必要で、それなりの専門的な知識が必要です。

	内容	人的資源	費用
ウォーターフォール型 一括構築	集中的に一定期間で構築する方法。必要なレベルまで一気に構築するが、必要度合いの判断と、一定期間経過後に検証および調整が必要。	それなりの人員が必要の為に、外注型になる。	一時的な費用が発生。
アジャイル型 トライ&エラー	スモールスタートで部分的に構築する方法。必要な都度作成し、作ったもの評価しながら進めるので sunk cost が発生する。	社内でスキルアップができれば、教育及びサポートを外部委託しながら、社内人員で構築が可能。	定期的な費用が発生。

# 運用方法選択

システムの使用が開始されると、様々な調整が発生します。主にシステムの追加・修正、社員教育、意見の取りまとめなどで、使い勝手を高める為に必要なこととなります。

	内容
社内人員を主とした運用	社内でワーキンググループを立上、メンバーが主体となり改善・運用する方法。 スキルアップと共にゆっくりとした改善になる。 社内にノウハウが残りやすい。
社内・外部と併用した運用	運用や改善案の取りまとめを社内のワーキンググループで行い、専門知識が必要なシステム構築は外注する方法。 参加メンバーが主体的になりつつも、専門分野は外注できるので、運用しやすい。
外部委託を主とした運用	社内ではキーマンを指定し、外部業者と調整しながら改善・運用を行う方法。 専門技術者を活用し、短期間での改善が見込まれる。

# その他

---

システム構築には外部システムとの連携が必要になる場合があります、それらも含めて検討する必要が有ります。

下記に連携する可能性があるシステムを掲載します。

- ・基幹システム(販売・仕入・在庫・会計・給与・勤怠など)
- ・ホームページ(ECサイト・お問い合わせ・QAサイトなど)
- ・流通サービス(EDI・受発注システムなど)
- ・決済サービス(クレジットカード・銀行引き落とし)
- ・業務サービス(請求書発行・デジタル契約)

# まとめ

---

情報システムを活用することにより、仕事のし易さ、若い人がITを使うことによるモチベーションアップ、コミュニケーションや不要な書類作成の改善など多くのメリットを受けることができます。

情報システムの活用が成功する為に必要な事は2点。

1. 社内に使える情報システムを整える事(システム環境)
2. 使う人にメリットがありモチベーションを高められる事(人的環境)

変化の激しい環境で情報システムが必要な事は2点。

1. ITツールを活用した変更し易い社内人員でも構築できるシステム環境
2. プログラミングに依存しないシステム(ローコード開発)



# お問い合わせ

---

本書類での質問、システム構築のご相談は下記まで  
御社に合ったシステム構築をご提案できます。

株式会社システムエンジニアリング

盛岡市中央通3丁目15-29

019-651-1522(受付時間10:00~12:00/13:00~16:00)

クラウドサービス推進担当: 菅村・寺田